

美山学だより

美山小学校では昨年度から「美山学」と題して美山の歴史・文化・人・物・事を教材として学び、表現力やコミュニケーション能力を高める学習に取り組んでいます！

南丹市立美山小学校
Tel : 75-0017 FAX : 75-0106 Mail : miyama-es@kyoto-be.ne.jp
平成 30 年 3 月 23 日発行 NO. 9

4年生 大野ダム見学

美山学から広がる学びはたくさん！
大野ダムの学びは⇒美山学と道徳+社会科と美山学

1月26日(金)、4年生は美山学の学習の一環(社会科・道徳)で大野ダムの見学に行きました。降雪の後で、ダムまでの道にもたくさんの雪がありましたが、ダム管理事務所の方々が早朝より道を作ってくださいました。4年生の子どもたちは、身近にある施設だけど、その大野ダムがどんな役割を果たしているのかよくわかっていませんでした。社会科の学習では、「発電をしている」ことや「洪水を防いでいる」ことなども学習していましたが、見学を通して、その具体的な役割やダムで仕事をされている方々の苦勞などを学びました。大野ダムは、美山のためだけではなく下流域に住む人々の安全を守る大切な存在だと実感し道徳の学びにもつながりました。

5・6年生 美山まちづくりのつどい2018開催 「美山の未来を考える～子どもたちと語る美山の将来像～」 はばだけ！美山34カンパニー！「美山ブランド」とともに



美山まちづくり委員会主催の美山まちづくりのつどいが2月25日(日)美山文化ホールで行われました。(翌日京都新聞朝刊丹波版掲載)オープニングでは美山34カンパニーが美山ブランドシールの開発・展開、これからの展望などをキャラクターのかやくん・みやちゃんとともに発表しました。そして、小・中・高生、大人の方を交えた意見交換の場では、6年生の西口恵唯くん、山名理彩さんが美山の農家や事業所を訪問して生産者さんと交流し感じたことなどを発表しました。美山の温かさ、ブランドシールを介して、もっと多くの人々に美山のよさを知ってもらい、子どもも大人もみんなで美山を活気づけていきたい、そのためには大人の方々の力が必要であることを訴えました。



5年生は、9月のホームステイ体験で、美山の人々の温もり、農産物の新鮮さとおいしさ、そして美山各地に残る伝承話の神秘性に触れ、これからも継続して美山学でホームステイをさせてもらい、地域の人・自然・物・事とふれあっていくことの大切さを発表しました。

子どもたちの願いや希望を膨らませ、世界に誇れる地域・美山にしていくのは、地域振興に取り組む諸機関や一部の役員だけではなく、住民レベルで何か具体的に取組んでいこうと動き出していきそうなそんな集いになったと思いました。

当日、会場で多くの方々に美山34カンパニーに募金をしていただき、41,556円給わりました。今後、活動資金(シール印刷代や商品開発費用等)に充てさせていただきます。ご協力ありがとうございます。



冬の風物詩「美山かやぶき雪灯廊、雪遊び、地域行事、大根の絵」 2年生

雪がすき かまくらつくった (ながわ ひろん)
きれいだな 雪とうろうの 冬の夜 (まえた こうし)
雪の上ねころんでいた 二年生 (のぼりお しき)
雪とうろう 光りをつけて わあきれ (にしぐち このみ)

俳句

日記

「ムラガーレ」
おかもと はるき
ムラガーレ
いっぱい来るよ
いい人
男の子
女の子
子どもたち
みんな
食べに来る人

「雪とうろう」
つつい まお
雪きれい
ものがいっぱい
たくさんあそぶぞ



寒く、冷たい土の中で大きくたくましく育った美山のダイコン！うまいぞ、ビタミンCがたっぷりだ！

1年生 祖父母 学級

2月1日(木)、1年生児童の祖父母の皆様に来校していただき、昔のあそびで交流しました。はじめに自己紹介を交わし、1年生の発表、歌やおどり「とんくるりんぱんくるりん」、「こいぬのマーチ」を楽しく見ていただきました。



おしえてもらったよ「むかしから つたわる たのしいあそび」

そして、子どもたちが待ちに待った遊びを教えてもらう時間がやってきました。お手玉、めんこ、かるた、おはじき、あやとり、コマ回し、けん玉・・・子どもたちの目はピカリと輝き、一心不乱に遊んでいました。それを傍らで目を細めて見守っておられる祖父母の皆さんの姿もたいへん印象的でした。また、つくってきていただいた鉄砲、リム回し、缶ぽっくりなどを使っての楽しい遊びを教えていただきました。最後は、お礼に子どもたちが歌に合わせて肩たたきをしました。楽しい時間はあっという間でしたが、教えてもらった遊びを、また子どもたちが楽しむことでしょう。



「美山のお宝発見！」 **大内かぶら**のひみつ 平屋サテライト教室
3年生

厳しい寒さがしばらく続いた2月でしたが、東の間の小春日和の16日、3年生が「美山のお宝発見！」についての学習をサテライト教室として旧平屋小学校のランチルームで行いました。

講師は、大内にお住いの澁谷清孝さんにお世話になり、大内かぶらがどうやって伝わったか、他品種やダイコンとのちがいが、そのおいしさのひみつ、料理法など実物やビデオ、ス



ライド等を見ながら楽しく学習することができました。菜の花のほとんどはかぶの品種であることや、大内かぶらの菜には、栄養素が豊富に含まれていることなど大変興味深く学習しました。また、実際に茹でた菜の葉っぱや茎を食べさせていただき「おいしい!」「これは美山のお宝だ!」と舌鼓を打ちました。美山のお宝であるとともに美山ブランドとして、これから大いに広まってほしいです。



世界とつながる美山
5年生

美山と関わりのある世界の国々について学習する中で、海外と取引のある地元企業、美山興業さんへ自動車関連工場の学習と関連させて見学に行きました。自動車シートの部品であるワイヤーを生産されています。工場に入ると、学校で学習したロボットアームがあちこちで働いています。関連工場の中では、機械の台数は日本一だそうです。私たちのふるさと美山には、世界のトップを走る日本の自動車工業の関連工場があることに、何かしら美山を誇らしげに感じた子どもたちでした。



また、美山に移り住んでおられる海外出身のおふたり、ドイツ出身のウベ・ワルターさんと、中国出身の川勝秀華さんにお越しいただき、海外と美山との違いや、美山の良いところ、どのような印象を持っておられるかなど質問をしました。ここ数年、美山を訪れる外国人観光客は急増していて、子ども



たちも海外の人たちを見る機会が増えています。美山まちづくり観光協会の高御堂さんにもお話を伺い、美山に居ながら海外の方と交流し、興味関心を持つ機会があることは大変良いことだと感じました。こうして美山にいながらにして、子どもたちの視点は時にグローバルになります。

5・6年生

Web 交流 第3弾 「海士町子ども会議」

今回で3回目となった海士町福井小学校5・6年生と美山小5年生、海士小学校5・6年生と美山小6年生のWeb交流は、海士町で開催されている子ども議会で、実際に子どもたちが提案する予定の議題を発表してもらい、それについて交流しました。それぞれの提案者が考えた内容で、小学生が通学で使用する横断歩道に押しボタン式信号や標識の設置を提案するものから、アクアリウムの建設、特産品にかかわるもの、地域のひととIターン者の交流促進についての提案や、ごみの分別袋についての提案、ローカルテレビ番組についての提案など、自ら地域にアンケートやリサーチを行いながら具体的に提案を作成されており、それを聞いた美山小の児童は大変感動した様子でした。ひとつのテーマについてそれぞれの



地域の子どもたちが一緒に考え、意見を交流し合う貴重な経験となりました。

この3回の交流を通して、これまで全く知らなかった地域の小学校のこと、そこに暮らす人のこと、生活のことを知り、互いに良い刺激を受けたようです。6年生はこれが最後の交流となりましたが、これをきっかけにますます交流が深まることを期待します。



6年生

美山34 カンパニー フィールドワーク研修 地域の生産者さん約20軒を訪問

美山34カンパニーの活動の一環で、6年生は2月21日(水)に地元生産者さんたちの生の声と、生産活動の基盤を探るべく、美山町内約20軒の生産者さんにお世話になり、それぞれの生産活動のお話を聞いたり、作業をお手伝いさせていただいたりしました。美山でブドウやブルーベリーなどのフルーツを生産している事、鶏のさばき方、野菜農家さんの冬の大変な作業など、初めて知ったこだわりや苦労、やりがい、楽しさに、ますます美山34カンパニーの活動の重要性を感じた子どもたちは、後日開催された美山まちづくりのつどいで、その思いを十分に発表することができました。こんなにも多くの地域の皆さんがご協力くださることも、美山の地域力の強さであると実感します。お忙しい中、ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。



HPで美山学の他、日々の子どもたちの様子も
随時更新中です!



熟議 第4回

「地域みんなで美山の子どもたちの未来を考えるワークショップ」と題して3月14日(水)に熟議を開催しました。今回は保護者の方も多く参加していただき、全7グループで「子どもに学ばせたい美山のことを考えよう」というテーマで熱くトークセッションし、あらためて、美山のよさ(豊かな自然、人の温かさ、伝統)を実感し、子どもから大人(保護者も含めて地域全体)までみんなでやっていけそうなアイデアが多く出されました。新たなアイデアもありますが、今ある地域ごとの行事や催し、ホームステイや聞き書きなど学校の教育課程で実施していることをオール美山で進めていくという行程を加えていくことがポイントになるのではないかと思います。来年度以降もこの熟議に皆さんのご参加をお待ちしております。

